

令和2年度

小学生名寄自然体験交流事業報告書



名寄市観光キャラクター
「なよろ」



杉並区次世代育成基金活用事業

令和3年3月
杉並区教育委員会

目 次

- 01 小学生名寄自然体験交流を終えて
杉並区教育委員会 教育長 白石 高士
名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一
- 02 令和2年度小学生名寄自然体験交流事業の概要
- 04 名寄自然体験交流マップ
- 05 写真でふりかえる交流事業
- 09 派遣児童の作文・作品
- 24 令和2年度小学生名寄自然体験交流を振り返って
井荻小学校 校長 小澤 伸生
- 25 保護者の感想

小学生名寄自然体験交流を終えて

杉並区教育委員会 教育長 白石 高士

杉並区の交流自治体である名寄市に、小学生を派遣する「小学生名寄自然体験交流事業」は今回で9回目となります。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、児童の参加人数を例年の25名から15名に縮小するとともに、事前にPCR検査を受けて訪問するなど、対策を十分に行ったうえで実施することとしました。何より、受入先である名寄市の皆様や、子ども達の体調管理に万全を期してくださった保護者の皆様など、多くの方々の支えにより無事に終えることができましたことを大変感謝申し上げます。

この事業は、寒さの厳しい北海道名寄市だからこそ得られる、杉並区ではできない体験をしてほしいというのがねらいのひとつです。今回は荒天の影響により、飛行機が旭川空港ではなく新千歳空港に着陸し、さらに鉄道も信号機故障で長時間停車するなど、予定通りには進まない道りでした。日ごろより雪とともに暮らしていない杉並の子ども達にとっては、自然の厳しさを実感したことと思います。

初日とは異なり、二日目のスノーシュートレッキングでは、前日の大雪により、例年になく柔らかい新雪を体験することができ、東京との雪質の違いなどは多くの子ども達の心に残ったようです。

最近では、パソコンやタブレットなどを用いて様々な映像を見ることができるようになりました。しかし、現地で雪の中を歩いて聞く音や、タオルを振り回した実験など、自らが肌で感じたことは仮想の世界では得がたい貴重な体験です。「聞くことは忘れること。見ることは覚えること。為すことは分かること。」今回は、子ども達にそうした体験を届けることができました。

あらかじめ名寄市で学びたいことを準備し、それを実際に体験し、考えてまとめ、自分の言葉で発表する。このことが、子ども達の探求心を育み、学びにつながるものだと実感しています。これからも、今回の体験を通じて、新たに持った課題を調べ続けていってほしいと思います。

最後になりましたが、本事業の実施にあたりまして、次世代育成基金の趣旨にご賛同・ご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

名寄市教育委員会 教育長 小野 浩一

新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が危ぶまれる状況ではありましたが、本年度も「小学生名寄自然体験交流」を無事終了できたことを大変嬉しく思います。実施にあたり、準備等にご支援、ご協力を賜りました保護者、関係者の皆様に心より敬意を表する次第であります。

本年度の名寄の冬は、雪の降り始めこそ遅かったものの、12月以降は積雪が多くなり、3日間にわたり北国名寄の冬を体感していただきました。

初日は、悪天候による交通機関の乱れが発生し、名寄への到着が大幅に遅れることになり、雪国の冬の生活の厳しさを実感されたと思います。

翌日以降は、プログラムに沿って北国博物館での対面式、展示室の見学、スノーシュートレッキングでの宝探し、カーリング、なよろ市立天文台きたすばるの見学など、名寄ならではの冬の自然や文化、スポーツに親しんでいただきました。

今回の自然体験交流の学習成果につきましては、学習成果発表会の終了後に名寄にお送りいただけたとのことですので、心待ちにしております。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取り組みを支援する活動と聞いております。名寄市での体験・交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受け入れに最大の努力をしていきたいと考えております。

結びに、本事業を通じて杉並区と名寄市の交流や相互理解がますます深まることをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。



なよろ市立天文台 きたすばる
令和2年12月27日

令和2年度小学生名寄自然体験交流事業の概要

1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、区内児童を交流自治体である名寄市に派遣し、厳しい寒さと豊かな自然との触れあいや、国内最大級の望遠鏡による観測等の体験、さらには地元の子どもたちとの交流などを通じて、自然の雄大さや大切さに気付き、さらに文化や産業の違いと良さを認め合う態度など、児童の知的好奇心や、豊かな人間性を育むことを目的としています。

2. 事業のスケジュール

令和2年 11月 6日(金)	結団式・第1回事前学習会・保護者説明会
12月 8日(火)	第2回事前学習会・保護者説明会
12月26日(土)～12月28日(月)	自然体験交流(北海道名寄市派遣)
令和3年 1月12日(火)	学習相談会・保護者説明会
2月 6日(土)	学習成果発表会

3. 派遣児童名簿(学習・行動班別)

班	氏名	学校名	学年
1班	大信田 葉土	杉並第二小学校	6年
	小澤 瑠璃	三谷小学校	5年
	武輪 志織	馬橋小学校	5年
	加來 志恩	富士見丘小学校	5年
	船田 夏帆	堀之内小学校	6年
2班	矢萩 凛子	天沼小学校	6年
	麻生 息吹	杉並和泉学園	5年
	前原 寛太郎	桃井第三小学校	5年
	田中 つむぎ	四宮小学校	5年
3班	武藤 駿	桃井第二小学校	5年
	横田 流雲	堀之内小学校	6年
	小林 日南子	大宮小学校	5年
	李 欣睿	天沼小学校	5年
	崎口 希鷹	桃井第五小学校	5年
	井上 小蘭	桃井第三小学校	5年

4. 引率者

小澤 伸生	井萩小学校 校長	宮脇 隆	済美教育センター 統括指導主事
小室 純子	高井戸第四小学校 主幹教諭	松田 朋	済美教育センター 指導主事
戸田 憲一	杉並第三小学校 主任教諭	本橋 宏己	生涯学習推進課長
大久保 千穂	永福小学校 教諭	鈴木 美貴	生涯学習推進課管理係 主査
※他 看護師 1名		田中 幸穂	生涯学習推進課管理係

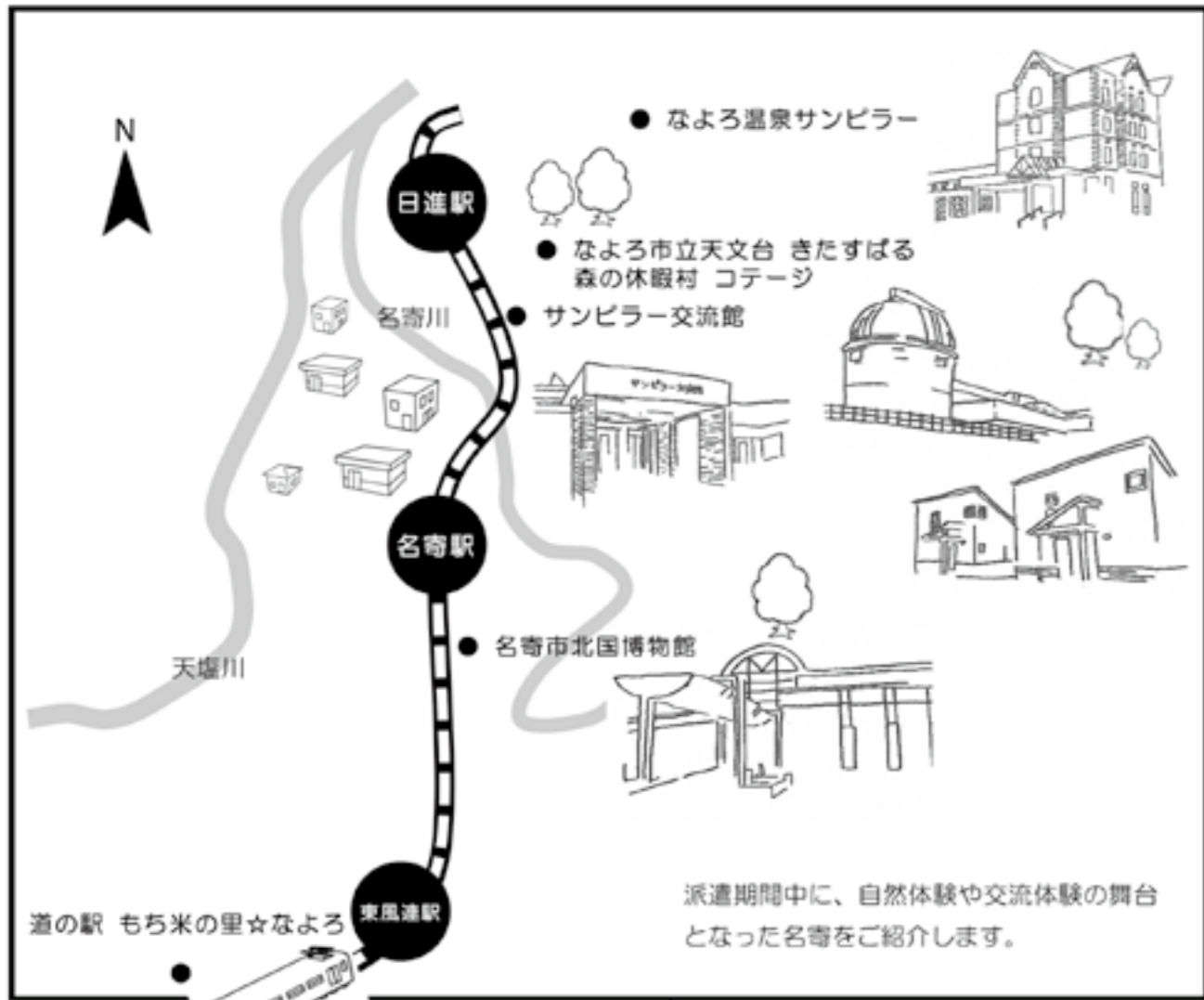
5. 学習指導者

馬場 章弘	高井戸第三小学校 校長(前年度引率)
小山 浩	済美教育センター 理科教育指導担当

小学生名寄自然体験交流事業(令和2年度)行程表

時間	1日目[12月26日(土)]		2日目[12月27日(日)]		3日目[12月28日(月)]	
	くもりのち雪	最高気温 - 5.0℃ 最低気温 - 9.8℃	雪	最高気温 - 5.8℃ 最低気温 - 14.6℃	雪	最高気温 - 4.6℃ 最低気温 - 9.8℃
6					6:00	起床
7			7:00	起床	7:20	休暇村コテージ発
					7:30	なよろ温泉サンピラー着(朝食)
8	8:00 8:15 8:30	児童集合 出発式 杉並区役所発	8:10 8:20 8:55	森の休暇村コテージ発 なよろ温泉サンピラー着(朝食) なよろ温泉サンピラー発	8:15	見送り式
					8:30	なよろ温泉サンピラー発
9			9:10	北国博物館着 博物館見学	9:00	もち米の里☆なよろ着
					9:20	もち米の里☆なよろ発
10	10:15	羽田空港着	10:00	対面式		
11	11:30	羽田空港発(ADO 83便)		スノーシュー トレッキング &宝探し	11:20	旭川空港着
12	12:00	昼食(機内)	12:15	昼食		
					12:50	旭川空港発(JAL554便)
13		雪による天候不良のため、急遽、新千歳空港へ変更となりました。		博物館見学	13:20	昼食(機内)
14	14:20	新千歳空港着 鉄道で旭川まで向かいました。	14:00 14:15 14:30	お別れ式 北国博物館発 サンピラー交流館着	14:40	羽田空港着
15	15:18	新千歳空港発 (JR快速エアポート153号)		カーリング	15:10	羽田空港発
					15:50	杉並区役所着
16	16:00 16:30	札幌駅着 札幌駅発(JR特急カムイ29号)	16:20	サンピラー交流館発	16:10	解散
17			17:00	きたすばる着 プラネタリウム鑑賞		
18		幌向(ほろむい)駅で信号機トラブル! 約1時間30分の間、途中停車となりました。	18:20 18:30	きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴		楽しみにしていた3日目の旭山動物園。帰りの飛行機が欠航したため、1日目に変更しました。しかし、その飛行機が新千歳空港に着陸したため、見学は叶いませんでした。
19	19:30	旭川駅着	19:30	夕食		
20	20:05 20:15	旭川駅発 軽食(車内)	20:10 20:20	なよろ温泉サンピラー発 森の休暇村コテージ着		
21	21:50	森の休暇村コテージ着 入浴/夕食	21:30	就寝		
22	22:30	就寝				

名寄自然体験 交流マップ



名寄市公式サイト

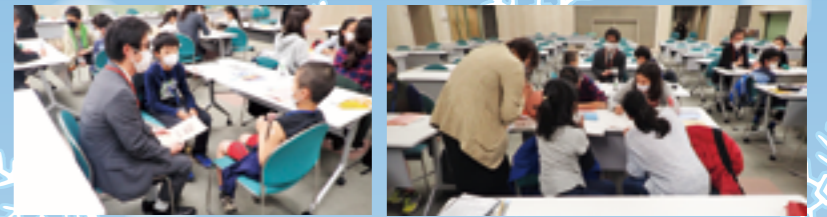


旭川空港から名寄市へ向かう予定でしたが天候不良のため、新千歳空港から向かいました。



第1回 結団式・事前学習会 令和2年11月6日(金)

この日が初めての顔合わせ。自己紹介などを通じて一緒に学ぶ仲間や先生と交流を図ります。



名寄の気候や農作物、文化、歴史など様々なことを学ぶ学習会。



第2回 事前学習会 令和2年12月8日(火)

第2回事前学習会では、学習課題をいつ・どこで・どのように調べるか、先生や仲間と相談し計画を立てます。



名寄派遣 第1日目 令和2年12月26日(土)

出発式



区役所での出発式のあとは、早速、北海道名寄市へ向かいます。これからの3日間は、観察・調査・実験や名寄の皆さんの話を伺いながら、事前に決めた学習課題について取り組みます。



名寄市へ

あいにくの空模様で旭川空港ではなく、新千歳空港へ到着。鉄道とバスを使い名寄市へ向かいました。



名寄のみなさんと対面式・スノーシュートレッキング

対面式後はスノーシュートレッキング。雪の結晶が見えて感激しました。



名寄派遣 第2日目 令和2年12月27日(日)



名寄市北国博物館では、「名寄の気候・地形・動植物について」や、「大昔から現在までの人々の生活について」の展示を前に、館長や学芸員の方々から説明していただきました。

北国博物館での調べ学習



カーリング体験

サンピラー交流館では、初めてのカーリング体験。コーチの丁寧な指導のもと、最後には簡単なゲームも楽しみました。体を動かしながら地元の方々とのふれあい、貴重な体験となりました。その後は、なよろ市立天文台きたすばるへ移動して、光学赤外線天体望遠鏡「ピリカ」の見学やプラネタリウム鑑賞を行いました。ピリカ (pirika) とはアイヌ語で美しいという意味です。



天文台 きたすばる



名寄派遣 第3日目 令和2年12月28日(月)



到着式



学習成果発表会 令和3年2月6日(土)

「名寄での3日間」をスライドショーで振り返りました。



発表の様子



今回の自然体験を通して学んだこと、感じたことなどを、一人ひとりの児童が作品や作文にまとめ、ステージの上で発表を行いました。



派遣児童の作文・作品

学校名	杉並第二小学校	氏名	大信田 葉土
-----	---------	----	--------

名寄市と杉並区の気候と生き物

ぼくは、名寄市と杉並区の気候や生き物を表にして比べてみました。
 まずは気候です。どちらも冬を比べています。名寄市は、気温が-20℃以下まで下がることがあります。北国博物館の資料によると、晴れていて気温が-15℃以下の時にしか見られないダイヤモンドダストや、太陽の光が柱のようなサンピラー現象が起こることがあります。さらに、名寄市の雪は、東京でまれにふる雪と比べてさらさらしています。そのため、名寄市で雪玉を作ろうとしてもなかなか固まらず、当たっても痛くありませんでした。

一方、杉並区では気温が氷点下になることはめったにありません。また、名寄市では雪雲が空をおおってくもりが多く、降水量も多いのに対して、杉並区は晴れの日が多く、降水量も少ないです。これは、東京の大きな特徴の一つです。また、名寄市では見られないかんきつ類の木も杉並区では多く見かけます。

なぜこんなに気候がちがうのかというと、名寄市は、日本海からの湿った季節風により雪が降ります。しかし、東京では季節風が山をこえてかんそうした状態であるので晴れが続くのです。

次は生き物です。名寄市には、クマゲラなどの鳥類、そして熊などの大型動物、エゾモモンガなどの小動物と多くの種類の生き物が生息しています。その理由は、人の手が入っていない森や林が多く、たくさんの種類が生息できる環境があるからです。

しかし、杉並も全く生き物がないというわけではありません。アオサギやドバトを含め、約20種類の鳥がいます。トカゲなどの小動物も見かけます。しかし、大型の動物は全く見かけません。杉並区に大型の動物を増やすには、名寄市のように、人の手が入っていない森や林が必要だと思います。

ぼくが名寄市に行ってみて思った杉並区との違いは、人の手の入っていない自然だと思いました。名寄市のようにはいかないかもしれませんが、杉並区の生き物も、大切にしていきたいと思っています。



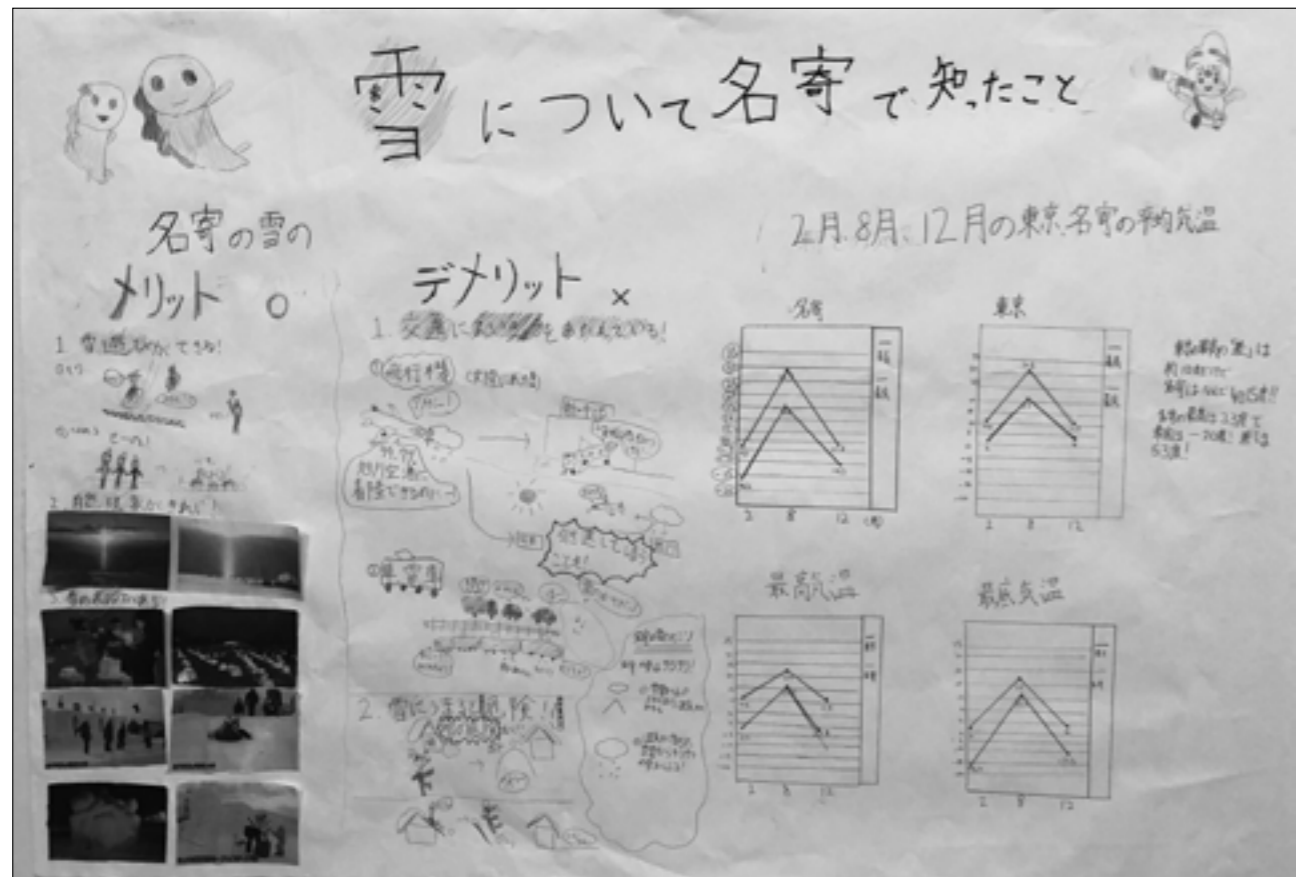
学校名	三谷小学校	氏名	小澤 瑠璃
-----	-------	----	-------

雪について名寄自然体験交流で分かったこと

私が名寄で雪について分かったことは、まず雪のえいきょうがすごいということです。ちょうど知りたかったことを体験をして実感しました。飛行機が着陸体制に入ったときに、アナウンスで雪と雪雲のえいきょうで旭川空港に着陸できないとお知らせがありました。たしかに外を見ると全てが雪におおわれていて空も真っ白でした。私は雪だけがえいきょうをあたえていると思いましたが、雪雲もえいきょうをあたえていたのです。しかも旭川空港は99.7%着陸できるのです。これは北海道の人もおどろいていました。そして新千とせ空港に着陸し、電車やバスに乗って夜の11時すぎにやっとコテージにつきました。

次の日の朝、気温が表示されている機械を見るとなんとマイナス12度でした。スキーウェアでだいぶあたたかかったです。一番寒いときはマイナス20度で夏のあつい時は33度までいくそうです。差はなんと53度！だいぶすごいです。この日、コテージの中が20度くらいで外がマイナス10度くらいで朝外に出ると急に寒くて、でも雪にさわるのが楽しみであまり寒くなかったです。名寄の雪にさわると今までとちがってとてもさらさらでした。その理由は雪雲が山の上を通り湿気が落ちてサラサラになるからです。東京だとすぐに丸められるけど、サラサラだと中々かたまらなくて上手に雪玉が出来てもすぐこわれてしまいます。この日は積雪が60cm以上で前の年の約2倍だったそうです。だから友達と雪の上にたおれたり雪をふんだりしてサラサラの雪を楽しみました。そのあとスコープで雪を見たら雪の結晶が見えました。様々な形があって枝分かれが少ない、多いなど小さなちがいもありました。雪遊びをした後、手ぶくろやそでなどの黒い部分を見ると雪がたくさんついていました。サラサラなのにとれなくて全然とけませんでした。よく見ると雪の結晶が見えてうれしかったです。

雪は交通機関にえいきょうがあるなどの悪いことだけでなく、良いこともあります。東京でも雪がふったらちがいを発見してみたいです。



学校名	馬橋小学校	氏名	武輪 志織
-----	-------	----	-------

ほし

私が、この「名寄自然体験交流会」に応じたきっかけは、学校でこのお知らせをもらい「これなら、土星の環を見れるかも」と思い、応じました。

私は、行く前に土星の環はどうやってできたのか調べてみました。

土星の環の起源には、主に2つの説があります。1つ目は、土星の環はかつて、「ヴェダリス」という衛星であり、潮汐力により粉々になって土星の周りをまわっているという説です。2つ目は、土星を形成した残りの物質でできたという説がありますが、実際はほとんどが氷の粒でできています。砂のようなサイズから、10m位のものまで無数の氷が土星の周りを回転しているそうです。

私は、それを自分の目でピリカ望遠鏡を使って見てみたかったけど、すごい雪で星すら見えませんでした。屋上観測室も雪がふりすぎていて、屋根もあけてもらえなかったことが、とても残念でした。

今回、名寄に行って分かったことは、緯度がちがうと同じ空でも場所によって見える位置がちがうことが分かりました。

名寄で学んだ星のことは、プラネタリウムだけでした。

今年は、397年ぶりに土星と木星が重なりました。緯度の違いで、日本では完全に重なるところは見られなかったのですが、60年後にもう一度重なるので、ぜひ見て下さい。

名寄で見るとハッキリと見える南のお座は、東京では緯度が低くて、地平線にかくれてしまうので、半分しか見ることができないそうです。

いろいろなことがあったけど、東京では体験できないことができたので楽しかったです。

また行く機会があれば、今度は冬ではなく、夏の名寄に行って土星の環や、かがやく星を見たいと思います。



学校名	富士見丘小学校	氏名	加來 志恩
-----	---------	----	-------

名寄の気候と仕事

ぼくは、名寄に行って実験をしたり仕事について調べました。理由は、名寄と東京では気候がちがうのでできる事が変わるかもしれないと思ったからです。

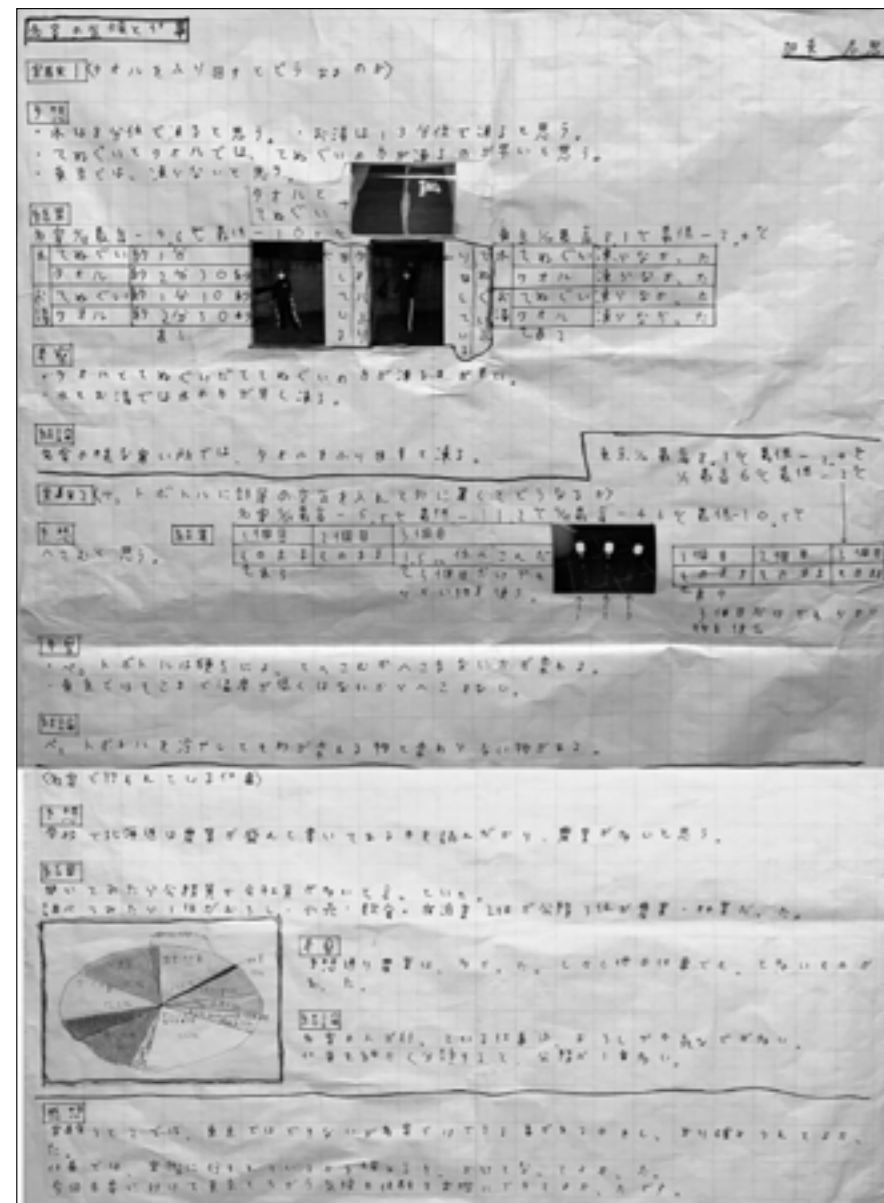
1つ目の実験は、タオルをどれ位ふり回したら凍るかです。布の質によって凍る速度が変わるかもしれないので、ふり回すのはてぬぐいとタオルにしました。また、水とお湯で温度がちがうため凍るまでの時間が変わりそうだと考え、両方することにしました。結果は、表1のようになりました。そして同じ事を東京でも試しました。それは表2に、書いてあります。凍るまでの時間は、予想では8分間か13分間と書いていましたが結果はかなり短く、おどろきました。

2つ目の実験は、ペットボトルに部屋の空気を入れてふたをして、一ばん外に置いておいたらへこむのかを調べました。ペットボトルの種類によってかたさがちがうので3本中1本をやわらかい物に、残りの2本はふつうのを使いました。これは、表3のようになりました。そして東京で試した物は、表4のようになりました。ペットボトルがそれほどへこんでいなかったのでおどろきました。そして、朝になっ

て気温が上がり空気がぼう張してへこんでいたのがもどったということも考えられるので、もっと早く起きて確認していればもっとへこんでいたのを見られたかもしれません。

名寄でしている仕事について北国博物館の人に聞いてみたところ、会社員や公務員の人が多くて、農業をしている人達は少ないと教えてもらいました。しかし調べてみると名寄の中では、3位でした。

名寄に行ってしっかり防寒着を着ていたから、寒さは意外と問題がなくておどろきました。しかし服の中に雪が入ると、とても冷たかったです。今回名寄に行けて東京とちがう気候の体験を実際にできてよかったです。



学校名	堀之内小学校	氏名	船田 夏帆
-----	--------	----	-------

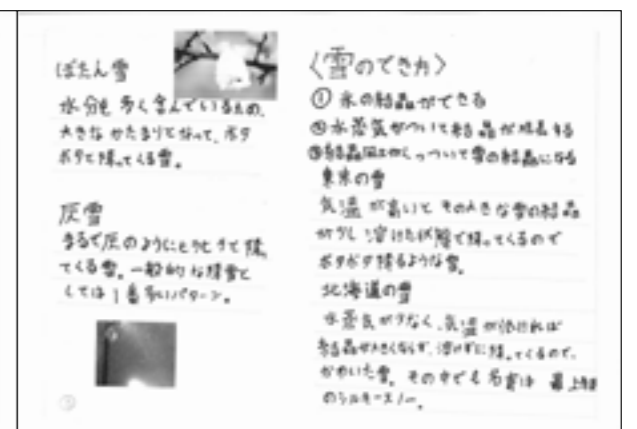
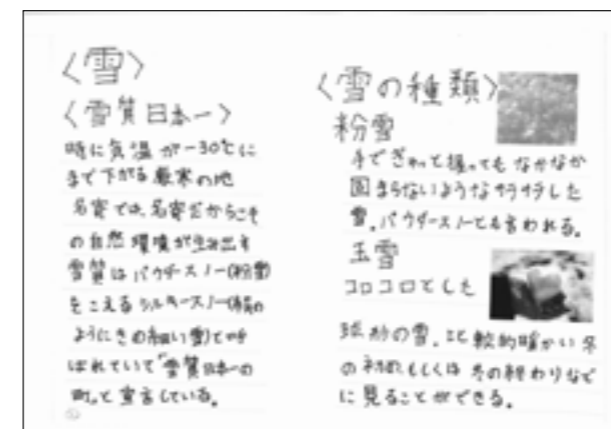
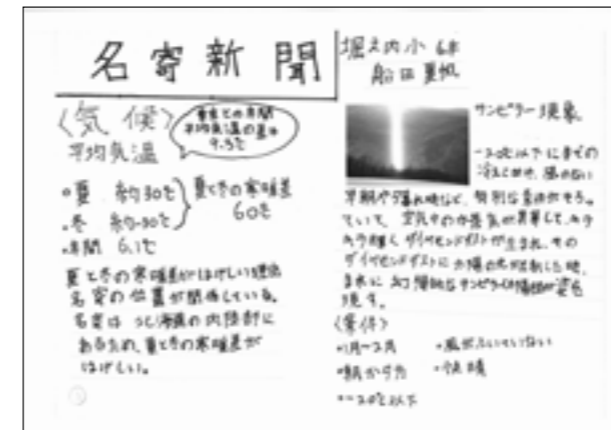
名寄の貴重な体験

今回「小学生名寄自然体験交流事業」で、名寄の自然のすごさと、東京のちがいを学びました。

名寄の気候は平均気温が夏は約30℃、冬は約-30℃と夏と冬の寒暖差が60℃もあります。また年間平均気温は、6.1℃です。夏と冬の寒暖差が激しい理由は、名寄の位置が関係しています。名寄は北海道の内陸部にあるため、夏と冬の寒暖差が激しくなっています。また東京との平均気温の差は9.3℃あります。私が名寄に行った時は気温が-7.0℃で、スキーウェアを着ていたけど、とても寒かったです。そしてサンピラー現象というものがおきることもあります。サンピラー現象とは、特別な条件があてはまっている時に、まれにおきることもある現象です。今回は見る事ができなかったのが残念でした。いつか見てみたいです。

名寄は、時に気温が-30℃にまで下がる厳寒の地であり、名寄だからこその自然環境が生み出す雪質は、パウダースノー（粉雪）をこえるシルキースノー（絹のようにきめ細かい雪）と呼ばれていて、「雪質日本一の町」と宣言しています。雪の種類は、サラサラとした粉雪、コロコロとした球形の玉雪、水分を多く含んでいてボタボタと降ってくるぼたん雪、灰のようにヒラヒラと降ってくる灰雪があります。雪は、氷の結晶に水蒸気がついて雪の結晶になります。北海道は気温が低いので、結晶が大きくなり、溶けずに降ってくるため、かわいた雪となっています。私が名寄でさわった雪もとてもふわふわでさらさらしていて、はじめてのさわり心地でした。また木に雪がつもって、樹氷のようでもきれいでした。

名寄でははじめての経験がたくさんありました。朝にやったぬれたタオルをふりまわす実験では40秒でおったことにとてもおどろきました。今度北海道に行くことがあったら、今回できなかった天体観測や、行けなかった旭山動物園に行ってみみたいです。



学校名	天沼小学校	氏名	矢萩 凜子
-----	-------	----	-------

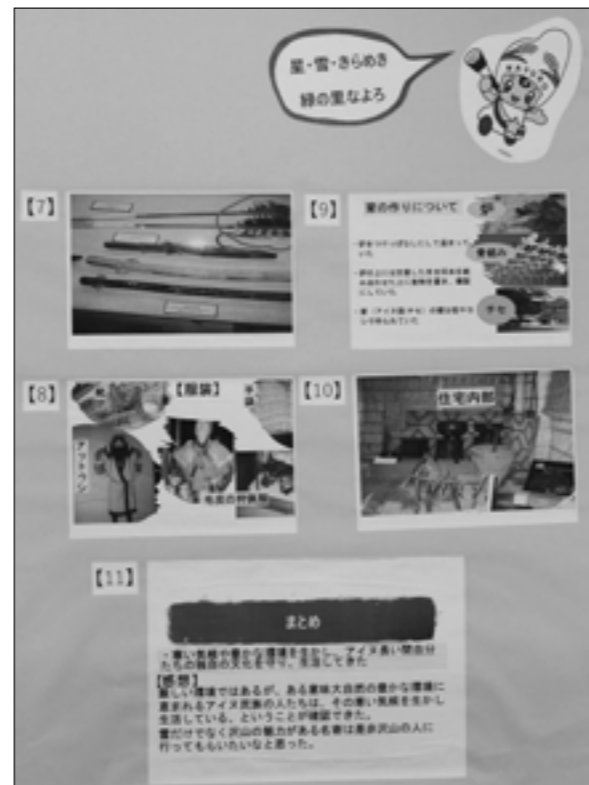
厳しい寒さの中で生きる人たちの工夫

名寄は北海道の北に位置します。北緯 44 度東経 142 度に位置する名寄の人たちは、どのような生活をしてきたのでしょうか？

まず、名寄の気候と豊かな自然を見てみましょう。名寄は名寄川と天塩川が合流する位置にあります。この 2 つの川が昔から豊かな恵みをもたらしてきました。次に、名寄の月別の平均気温です。どれも東京では考えられない温度で、私たちが行った 12 月の平均最低気温は -10.3 度となっています。この豊かな川と気温を生かし、そこならではの農作物を作っています。名寄市の基幹産業は主にもち米とアスパラガス。もち米は日本一の作付面積、アスパラガスは北海道有数の作付面積、そして収穫量を誇ります。

では具体的にどのような生活をしてきたのか見てみましょう。私はアイヌ民族に着目しました。アイヌ民族とは 13 世紀から北海道から東北地方にかけて独自の文化を形成した狩猟民族で、名寄の環境を上手に生かし、生きてきました。これは、アイヌ民族が使っていたという道具です。上の仕とめ矢の先には動物の羽が使われているのが見て分かります。鮭の皮で作った靴やアットウシと呼ばれる伝統織物、毛皮を利用した服、植物で作られた手袋など、アイヌ民族は自然や生物に恵まれた環境を生活に取り入れ、長い間受けついできました。アイヌ民族も今の人と同じように炉をつけばなしにして温まっていた。炉の上には木を何本か組み合わせた上に食物を置き、燻製にしたりしていたそうです。チセはアイヌ語で住宅という意味です。壁はヨシや笹で作られました。これは住宅の復元です。壁は寒い風が入ってこないように何本も何本も組み合わせることで寒さをしのいできました。

今回、名寄に行って寒い気候や豊かな環境を上手く生かし、アイヌ民族は長い間自分たちの独自の文化を守り生活してきたことが分かりました。雪だけでなく、沢山の魅力がある名寄に是非行ってほしいと思います。



学校名	杉並和泉学園	氏名	麻生 息吹
-----	--------	----	-------

名寄紀行天文編・アイヌ編

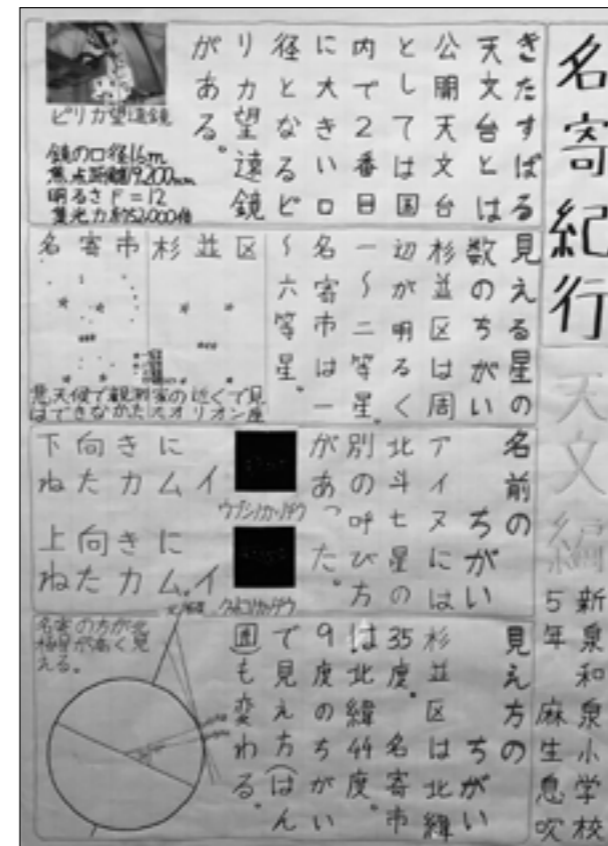
僕は名寄市で星の事を調べました。

まず、きたすばる天文台についてです。公開天文台では国内で二番目に大きい口径 1.6 m のピリカ望遠鏡があります。今回は雪が降っていて星を見ることはできませんでしたが、台長さんに聞いたところ杉並と名寄で見える星座は異なるそうです。名寄は杉並よりも周りが暗いので、見える星の数も多く、なんと五〜六等星まで見えるそうです。

北斗七星にはアイヌの呼び名があります。例えば、ウプシノカ・ノチウというのは、下向きにねたカムイの姿という意味だそうです。また、クットコノカ・ノチウとは、上向きにねたカムイという意味だそうです。このように同じ星座でも見える角度がちがうだけで名前が異なります。僕は同じ日本でも場所によって見える星座・見えない星座があり不思議だなと思いました。また、アイヌ民族が星座を神に例えるのは一つの文化と感じました。

次にアイヌについて調べました。アイヌ語では日本語にはないク、ハ、パなどを使っています。北海道の 179 の市町村の 8 割がアイヌ語の地名だそうです。アイヌのくらしでは動物の毛皮、魚の皮、鳥の羽、木や草をつかって衣服を作っていました。また、食事は鮭や鹿の肉、ヒグマの肉を食べていました。ヒグマの狩りをするさいは、春狩りといって冬眠しているヒグマをねらい狩りをしています。冬眠しているヒグマをねらう理由はけがを減らすためです。アイヌの文化はカムイノミというアイヌの神に感謝を伝えるためにイクパスイという酒につけた木を使っていました。僕はアイヌ民族は自然と共に生活するうえで様々な工夫をし、バランスをとっていたことを学びました。僕もアイヌ民族のように自然と関わる時は人間のことばかり考えず、自然のことも考えて感謝していこうと思いました。

北海道に行き、僕は人と自然の関わりを強く意識できるいい体験ができたと感じました。



2班

2班

学校名	桃井第三小学校	氏名	前原 寛太郎
-----	---------	----	--------

北海道の名寄の寒さについて学んだ事

僕は、去年の春までアメリカのイリノイ州のシカゴという函館と同じ緯度にある所に住んでいて、ここでは冬は-30℃にもなる事がありました。名寄自然体験に僕が応募した理由の一つは、日本でも-20℃になる所があると知って、行ってみたいと思ったからです。シカゴは寒くても雪があまりふらないので、雪遊びがなかなかできませんでしたが、名寄はたくさん雪がふるので雪遊びが思う存分にできてうらやましいな、と思いました。

これから北海道がなぜ寒いのか、またその中でも名寄が特に寒い理由について学んだ事を説明します。北海道の北東には、オホーツク海があります。オホーツク海には、北海道より北のロシアや中国を流れているアムール川の真水が流れ込んでいます。真水は、塩水と違って凍りやすいので、真水と塩水が混ざって塩分が低くなった海水が凍り、流氷ができます。この流氷が、北海道の北東に流れ着く事で、北海道がより寒くなっています。

その中でも名寄が寒いのは、名寄の地形が関係しています。名寄は、天塩山地と北見山地に囲まれた盆地です。天塩山地と北見山地で冷やされた空気が名寄におりて、名寄の温かい空気が逃げてしまうので、名寄がより寒くなります。

杉並区の12月の平均最低気温は5℃ですが、名寄は-10℃で15℃の違いがあります。一方で名寄よりもさらに北にある稚内は平野なので、名寄よりも気温が高く-5℃です。このように緯度の差だけでは無く、地形の違いも影響して、気温に大きな差が出る事を知りました。

この体験に参加して、名寄の気候を学ぶ事ができ、またスノーシューやカーリングなどの寒い地域ならではの遊びも、たくさん経験する事ができました。シカゴでは、気温が低すぎて一週間も学校が休みになる事がありました。名寄の子供もたちは冬の間、どのような学校生活を送っているのかも知りたいと思いました。



学校名	四宮小学校	氏名	田中 つむぎ
-----	-------	----	--------

名寄の雪

私は、雪について調べました。

自然が好きだし、東京の雪とは雪質がちがうと聞いて、調べたいと思ったからです。

名寄の雪をふむと、「キュッキュッ」という音がして、小麦粉をふんでいるような感じがしました。東京のベチョベチョしている雪とはちがって、ふわふわした雪でした。深く積もっているところは、ふんでもほとんど音がしませんでした。

雪はとても深く積もっていて、50cmくらい、丁度ほどの高さくらいまで積もっていました。

手でさわると、とてもさらさらしていて水気が少なく、雪玉が作りにくかったです。さらさらなので、紙にのせてかたむけても、すぐきれいに落ちました。

観察すると、積もっている雪は東京の雪よりも白く見えました。黒い紙の上にのせて虫めがねで見ると、少しとげとげした形なのが分かります。

バスや電車のまどをふちどっている雪は少しとけていて、ふつうに積もっている雪よりもだいぶとげとげした形でした。

名寄の雪を調べて、こんな雪に毎年ふれあえる地元の人がうらやましいと思いました。でも、毎日雪だったら、そのうちあきてしまうかな、とも思います。

名寄の雪は、さらさらで色も真っ白だから、雪質は東京よりもずっと上だと感じました。

ふんだ時の音や、ふんだ感しょくなどが、もっとふわふわなのかとっていて、おどろきました。



2班

2班

学校名	桃井第二小学校	氏名	武藤 駿
-----	---------	----	------

雪国の生活 ぼくが見た名寄

ぼくは、杉並区の小学生名寄自然体験交流で名寄市へ行ってきました。飛行機で旭川空港に向かう途中、吹雪におそわれ着陸できなくなり新千歳空港に到着しました。そのため電車で旭川へ向かいましたが、雪による信号トラブルで一時間半も停車し、予定よりもだいぶ遅れて名寄市に着きました。雪の影響で飛行機がゆれたり電車が止まってしまうことに、とても驚きました。東京では雪がめずらしく、ぼくにとって雪はワクワクして楽しむものだと思っていたからです。今回、このようなきびしい雪の環境で暮らしている北海道の人々の生活について興味を持ちました。

バスの中から見る北海道の町は雪の銀世界で、とてもきれいでした。人々がスコップをかつぎ道に雪を寄せて雪かきをしている様子や、家の前にブルドーザーが置いてあるのが見えました。除雪車も道路を走っていました。道路の上には道路の場所を指す矢印の標識があり、車やバスが雪で見えなくなった道をそれるのを防ぐため設置しているそうです。また、泊まったコテージには厚いガラスでできた二重窓があり、寒い風がすき間から入らないようにしていました。東京では見たことのないような雪国ならではの工夫をいろいろなどころで見つけることができました。

二日目に北国博物館に行きました。博物館ではアイヌの人々の生活や雪国ならではの遊びについて学びました。特に学んだことは二つあります。一つ目は、北海道のきびしい寒さの中で暮らすアイヌの人々の生活です。アイヌの人々は、木を切って道具を作ったり食料を手に入れるため狩りをしたりしていたそうです。ぼくが一番すごいと思った道具は、木などを運ぶための木で作られたそりです。運ぶ量によってそりの大きさを変えられます。実際に見たそりは、とても大きかったです。伝統的な衣服は、犬、くま、サケ、シカなどの動物の皮やささの葉などの植物を上手に組み合わせて作っていたそうです。家には、ガラスせんいのだん熱ざいがかべにはってあり、屋根にはささの葉などを付け、雪が入らないようにしていました。二つ目は、スキーなどの雪や氷を利用した北海道の遊びについてです。おもしろいと思ったのは、スキー板のうら側にアザラシの皮がはってあったことです。アザラシの皮をはると、雪の上では前に進み後ろには進まないで急な雪山でも登れるそうです。アイヌの人々は、雪の性質をよく理解し、知恵を働かせて雪と共に生活していたことが分かりました。北国博物館で学んだ後、サンピラー交流館で氷上で遊ぶカーリングを体験しました。カーリングは石をすべらせて点数を競うスポーツで、石をおすと氷の力で遠くまですべっていくのが、おもしろかったです。

今回、ぼくは初めて冬の北海道へ行き、雪国で暮らす人々の生活を見て学ぶことができました。雪は

楽しい面だけではなく、雪がたくさん降ると交通機関が止まってしまうような危険な面もあります。北海道の人々にとって雪はとても身近です。雪のきびしい環境の中で生活するために昔の人々から受けつがれてきた知恵を使って、様々な工夫をしていることが分かりました。気候の異なる東京と北海道の人々の生活には、多くのちがいがありました。気候に合わせて生活の仕方が変わってくることを学び、他の地域に暮らす人々の生活についても調べたいです。



学校名	堀之内小学校	氏名	横田 流雲
-----	--------	----	-------

冬の名寄大発見新聞

僕は、産まれてからずっと東京で暮らしているので、冬の北海道がどの位寒いのか？全く想像出来ませんでした。

名寄に行って一番驚いた事は、つららが斜めに出来ていた事です。下に向かって出来ているつららしかないと思っていたのでびっくりしました。僕がよりつららに興味をもつきっかけとなる出来事がありました。ぬれたタオルをふり回して凍らせる実験の時、そのぬれたタオルをふり回してみたら、30秒位で固くなりはじめ、1分位で凍りました。手をはなしても凍った状態でまっすぐ立ちました。その時、タオルの固まった姿を見たら、つららみたいだなーと思い、つららがどうやってできているのかくわしく知りたくなりました。

家に帰ってから、つららの事を調べてみました。つららは、屋根に積もった雪が太陽の熱や家のだんぼうによってとけて、したたり落ちる時に水が氷点下の空気にふれて次々と凍り、太く長く伸びたものだそうです。長さは数cmから、数mにも達するそうです。ななめのつららは、屋根の雪に押されたり、横風が強かったりすると、つららがななめや横に向かって伸びるそうです。また、滝や渓谷では、流れている水が滝に落ちるタイミングで凍ったところにまた水が流れてきて凍るということを繰り返してできる「氷瀑」というものもあります。アイスフォールとも呼ばれています。青や緑にライトアップされ、冬の観光名所にもなっています。他に「氷筈」というものもあるそうです。どうくつに発生し、上から落ちた水滴が下で瞬時に凍りつき、たけのこのような形状になったものだそうです。名寄で見た以外にも色々なつららがあることが分かりました。

また、毎年つららが落ちて、ケガをしたり、死亡したりする事故が起きているそうです。そういった事故を防ぐためのさまざまな工夫があります。それは屋根につららや落雪を防止するヒーターをつけたり、つらら落としという棒でつららをたたき落とす作業をするそうです。結構力の必要な作業だそうです。

このように安心して雪国で暮らすためには、大切な日課の仕事がある事を知りました。

最後に、今回僕は名寄市に行って自然のすごさを感じました。そしてその中で暮らしていく知恵や工夫を学びました。次は、夏に行って、雪がない名寄も見たいと思いました。



3班

3班

学校名	大宮小学校	氏名	小林 日南子
-----	-------	----	--------

名寄体験記

コロナ禍で、出発の前日まで中止の連絡が来てしまうのではないかと心配していましたが、無事に出発することができたのもつかの間、吹雪の影響で、旭山動物園へ行けませんでした。私は事前にアカゲラについて調べていたので、ぜひ本物を動物園で見たかったのです。しかし、運良く北国博物館の窓から本物のアカゲラを見ることができました。

なぜアカゲラを調べたかという、名寄市のシンボルでもあり、カントリーサインの鳥でもあるからです。私は動物が好きなので、もっとアカゲラの生態を知りたくなりました。

アカゲラはキツツキの仲間で、北海道はエゾアカゲラ、本州・佐渡・対馬はアカゲラという種類です。身近に見れるのは高尾山です。見た目の違いは、エゾアカゲラはアカゲラと比べると、のどと胸がより白く、背中逆八の字の白い部分がより広いです。この鳥は渡り鳥ではなく留鳥なので昔から生息する土地の気候に適した体になっています。実物のアカゲラは、たくさんの雪が降る中でしっかりと幹に留まり、生きている姿がたくましく、強さを感じました。

今回、実物は見れなかったのですが、ホッキョクギツネについても調べました。ホッキョクギツネは、夏と冬で毛色が違います。夏毛は灰褐色で、岩や植物に擬態し、冬毛は白色で、雪に擬態します。季節の差が大きい土地ならではの特色に感心します。

2日目に、「-10度以下の世界で、物はすぐに凍るのか？」という実験をしました。タオルを振り回すと凍る、と聞いたことがあったので確認したかったからです。まず、雪山を作り、その上にうすいハンカチを被せました。翌朝見ると、ハンカチが山の形に凍っていました。今回はコロナの影響で、食べ物を凍らす実験ができなかったのですが、次にチャンスがあればやってみたいです。

私が名寄市に行って一番感じたことは、強烈な寒さです。バスを降りた瞬間、杉並区とは次元の違う寒さに驚きました。また雪質の良さにも驚きます。雪質日本一と聞いていたのですが、雪玉が作れないくらいのサラサラな雪質でした。寝転がると、フワフワで気持ち良かったです。次は夏の北海道に行ってみみたいです。夏の動物の様子を見てみたいからです。



学校名	天沼小学校	氏名	李 欣睿
-----	-------	----	------

いろいろな事を教えてくれた「名寄」

今回の派遣学習の名寄市では、東京都で体験できない事をさせていただきました。名寄市の北国博物館で、昔の人々の暮らし、自然の工夫について学ばせてもらいました。

北海道のアイヌ民族は、防寒具に犬の毛皮を使用していました。今では、犬の毛皮と聞くと、少しゾッとしますが、アイヌ民族にとっては貴重な資源だったと思います。それからスキー板にアザラシの毛皮をはってスキーをしていました。これは北方系民族が古くから使用されていました。アザラシの毛は毛なみがいいのでスキーには最適だそうです。

北国博物館の窓の外に巣箱がありました。その中にカケス等の小型～中型の鳥が入っていました。名寄市ではかなり多くの種類の鳥類がいます。とくに見てみたかったのはオオワシ。シマエナガ。そして市の鳥のアカゲラです。森の中にアカゲラがいたのですが、カメラにおさめることはできませんでした。アカゲラは、頭のうしろが赤くなっている鳥です。実物を見てみたかったです。みなさんも家族や友だちと名寄へ行く時は、アカゲラを探してみてください。先ほど名前を出したシマエナガはツイッターで「かわいい」と話題になった鳥です。全長14cmと小型の鳥です。かわいすぎて写真集もでた鳥です。オオワシは、全長85cm～100cmと大型の鳥です。冬期北海道に渡来してきます。オオワシの尾羽は矢羽の羽になっています。

夕方、コテージに向かうバスに乗っている時、窓から「つらら」を見つけました。そこで、水と氷の実験をしようと思いました。ペットボトルを一晩外において、中の水が凍るのか調べました。予想では、つららも水からできているので凍ると考えましたが、結果凍りませんでした。飲んでみると、すごく冷えていました。なぜ凍らないのか、原因は入れ方にありました。ペットボトルを半分、中半分外に置いていました。かまくらは中が温かいのできっと雪の中も少し温かいと思います。なので、あと一晩すれば凍ると思います。

今年は、コロナで思うように行動できなかったけれど、これもいい経験になったと思います。みなさんもぜひ！家族や友だちと名寄へ行ってみてください！！



3班

3班

学校名	桃井第五小学校	氏名	崎口 希鷹
-----	---------	----	-------

名寄での体験

僕たちは2泊3日で北海道名寄市に行きました。羽田空港から旭川空港に行こうとしましたが雪雲の中で飛行機がかなりゆれ、吹雪で着陸できず新千歳空港に着陸しました。そこから旭川に行くために電車に乗ったのですが、信号が壊れ電車が1時間半止まり、そのあとバスに乗り二時間という移動だけで、自然の怖さを体感しました。旭山動物園に行けなかったのが悲しかったです。

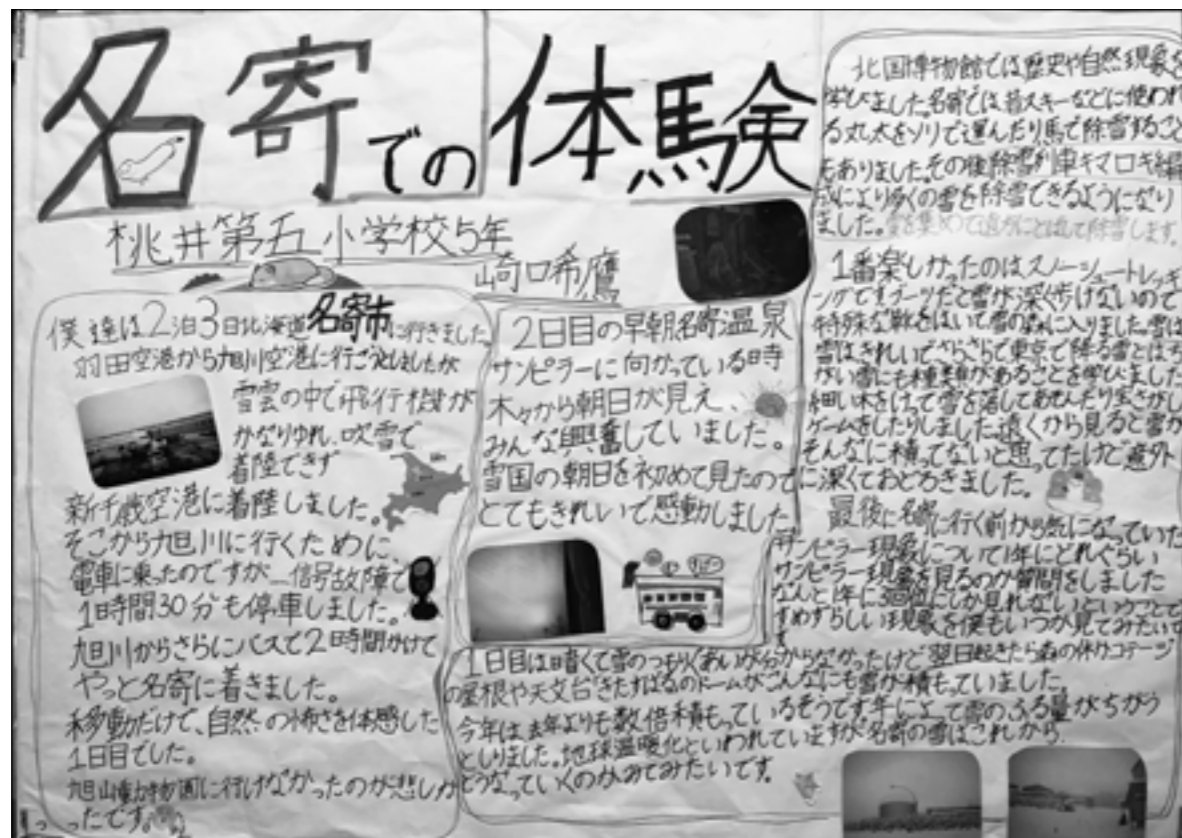
翌日に名寄温泉サンピラーにバスで向かっているとき、木々から朝日が見えてきました。みんな興奮していて、僕は、雪国の朝日をはじめて見たのでとてもきれいで感動しました。

1日目は暗くて雪のつもりぐあいが見えなかったけど、翌日、森の休か村コテージの屋根や天文台「きたすばる」のドームにこんなにも雪が積もっていて、今年は去年よりも数倍積もっているそうです。年によって雪の降る量がちがうと知りました。地球温暖化といいますが名寄の雪がこれからどうなっていくのかみてみたいです。

北国博物館では、歴史や自然現象について学びました。名寄では、昔、馬でスキーなどに使われる丸太をソリで運んだり馬で除雪することもありました。その後除雪列車キマロキ編成により、多くの雪を除雪できるようになりました。除雪列車キマロキ編成とは雪を集めて遠方にとばして雪を除雪します。

一番楽しかったのは、スノーシュートレッキングです。ブーツだと雪が深く歩けないのでとくしゅなくつをはいて雪の森に入りました。雪はとてもきれいでさらさらで、東京で降る雪とはちがいに雪にも種類があることを学びました。遠くから見ると雪がそんなに積もってないと思ったけど意外にも深くおどろきました。時々とくしゅなくつがぬげ、ズボッと雪にはまって大変だったけど楽しかったです。

最後に、名寄に行く前から気になっていたサンピラー現象について1年にどの位サンピラー現象を見ることができるのか質問をしました。なんと1年間に3回位しか見れないということです。めずらしい現象を僕もいつかみてみたいです。



学校名	桃井第三小学校	氏名	井上 小蘭
-----	---------	----	-------

大雪の名寄で発見! 動植物の秘密

北海道に行けてすごうれしかったです。天気が悪く旭山動物園に行けませんでした但其の分自分で詳しく調べました。

まずは雪。去年行ったスキー場の雪は固かったけど名寄の雪はサラサラしていました。同じ雪なのになぜちがうのか調べました。雪は、ずばり気温と水蒸気で質が変わります。冬、シベリアから冷たい季節風が北海道に吹いて来ます。風より温度が高い日本海の水は水蒸気になって風にのり、寒い高い空の上で氷の粒になります。氷の粒に他の水蒸気がつくと大きな氷の結晶になります。水蒸気が少ないと氷の粒は小さいままです。雪雲は北海道の天塩山地にぶつかってたくさんの雪を降らせます。山を超えて名寄につく時には水蒸気が少ないので細かいサラサラの雪なのです。

北海道と本州の間の津軽海峡には目に見えないブラッキストーンラインという線があります。この線の北と南で住んでいる動物が違います。線の北側にはヒグマやナキウサギやエゾシマリス。南にはツキノワグマやニホンザルやニホンリスがいます。クマもシカも本州より北海道にいる種類の方が大きいです。体が大きいほど体の中で熱がたくさん出来るからです。動物の種類に分かれ目ができたのは一万年前の最後の氷河期。本州は朝鮮半島を通じて、北海道は樺太を通じてユーラシア大陸とつながっていました。でも北海道と本州の間にある津軽海峡は449mもの深さがあるのでつながらず動物は本州と北海道の間で行ったり来たり出来ませんでした。

でも植物は温帯の広葉樹と亜寒帯の針葉樹がまざっています。一番多い針葉樹はエゾマツとトドマツ。二つはそっくりだけどエゾマツのマツボックリは下を向いて、トドマツは上に向いています。広葉樹のミズナラのドングリをアイヌの人はペロニセウと呼んで団子にして食べていました。ホオノキの実は火であぶってお茶にしました。体を温めるそうです。

今度は北海道でホームステイをやりたいです。そうしたら野生の動物を探したり、けんび鏡で雪の結晶を見たり、夏にはどのような景色なのか見たいです。



3班

3班

令和2年度小学生名寄自然体験交流を振り返って

井荻小学校 校長 小澤 伸生

9回目の実施となる「小学生名寄自然体験交流事業」は、恐らく今後も語り継がれる全行程となるのではないのでしょうか。まず始めに、新型コロナウイルス感染症対策を施しての実施でありました。例年3回実施していた事前学習会も、感染症拡大防止の対策を施しながら、2回の実施で出発当日を迎えました。また出発直前に参加者全員がPCR検査を受けての実施というのも事業が始まって以来、初めての出来事でありました。内心この段階で、自分も含め陽性者が出た場合の各校の対応を想像すると、冷や汗をかく思いであったのは、私だけではなかったでしょう。

2つ目に、出発日の26日には、予想外の寒波に日本海側が包まれたことです。離着率99.7%と言われる旭川空港に降りることができず、なんと新千歳空港に飛行機は降りました。2回試みた旭川空港への着陸は、今までに経験の無いほど揺れました。(後ほど名寄の方々からも、「旭川に飛行機が降りられないことは、滅多にないこと。」という言葉が何度かかけられました。)飛行機上では数十分の移動ですが、新千歳から旭川への電車を乗り継いでの移動は約6時間。その後、札幌から旭川への車中で、信号機故障で1時間半も閉じ込められました。杉並からの移動時間はトータル約14時間!なんとヨーロッパへのフライト時間と同じ時間をかけて名寄に到着しました。

事前学習会の時から感じてはいましたが、今回参加した子供たちの意欲は流石でした。自主的で、主体的で、そして好奇心旺盛な15人でした。事前の学習準備をきちんと行って参加していたことに加え、3日間の中での様々な対応にも不平や不満を抱かず、その時その時の自らのやるべき事に正対することができました。清々しい冷気に包まれた林の中のスノーシュー・トレッキング。サラサラのパウダースノーをかき分けて見つけた宝探し。見るのとやるのは大違い、初めは立つこともままならなかったカーリング体験など、東京ではできない体験を通して、また、このような機会が無ければ恐らく出会えなかった仲間との出会いを通して、15人の子供たちが集団として育っていくのも感じられました。

また、人間の思い通りにはならない自然の力をまざまざと見せつけられたこの度の名寄自然体験交流でしたが、札幌駅では大型のストーブで暖をとる乗客の姿や、氷点下の雪が降る真っ暗な高速道路の移動など、雪国北海道の厳しい暮らしを垣間見ることができたことも予想外の収穫だったと思います。

そして迎えた2月6日(土)の学習成果発表会。アクシデントの為、行えなかったイベントの数々から、厳しい成果発表になることを予想していましたが、どの子も2泊3日の濃縮された体験が見事に表現された素晴らしい発表ばかりでした。恐らく各ご家庭でのアドバイスやご協力があったことなのでしょう。頭が下がる思いです。今回のこの事業が、15人が更に大きく成長するための糧となることを切に祈ります。

結びになりますが、快く児童を迎え入れてくださった名寄市役所および名寄市教育委員会の皆様、そして本事業の趣旨に賛同し、ご協力いただきました皆様に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

保護者の感想

・3日間を通して、「楽しかったこと」「残念に思ったこと」「びっくりしたこと」「大変に思ったこと」など、様々な感情が生まれた様で、とても刺激を得て帰ってきました。色々な体験をし、少し成長したようです。

・色々なハプニングが起こる中で、それこそ「極寒の地」に生きるとは…ということ、身をもって体験できたことと思います。

・初日のハプニングも乗り越え、東京ではできない体験をすることができたのは本当に良かったと思います。本人も、自信がついたのではないかと思います。

・子どもが自主的に自分の興味の持った分野について調べ、現地でも質問したり学習してくることができました。また、短い期間にたくさんの方々との人間関係を築くことができました。

・自分でテーマを見つけ、それについて考え、自分の考えをまとめるという流れの中で、子どもの成長を感じました。

・名寄市での星空やきたすばるでの天体観測を楽しみにしていたのに、それが見られなかったことをすごく残念がっていました。飛行機のアクシデントもありましたが、列車で移動したことを楽しそうに教えてくれたり、予想外の出来事を乗り越えることができ、自信がついたのではないかと思います。

・見たこと、体験したことが心に残り、将来のことを考えるときにきっかけとなっています。実体験に勝るものはないなど、感じました。

お世話になった名寄市のみなさま
本当にありがとうございました！

名寄市と杉並区の交流事業一覧

事業名	概要	時期
アスパラまつり★・名寄市写真展	杉並区役所で名寄市特産のグリーンアスパラ等の販売と名寄市風景写真の展示をします。	6月上旬
白樺まつり★	東京高円寺阿波おどり親善訪問おどり団と区代表団が名寄市を訪問し、まつり会場で踊りを披露します。	6月中旬
杉並区・名寄市子ども交流会★	夏休みに、両自治体の小学4～6年生(25名)が、相互に訪問し交流を深めます。	7月下旬～8月上旬
東京高円寺阿波おどり大会★	名寄市代表団・おどり団をお招きし、交流自治体連として踊りを披露していただきます。	8月下旬
一足早い秋の収穫祭	杉並区役所でとうもろこし(ゴールドラッシュ)等を販売します。	9月中旬
秋の物産展★	阿佐谷ジャズストリートの期間に、かぼちゃ・じゃがいも・たまねぎ等名寄の秋の名産品を販売します。	10月下旬
すぎなみフェスタ	交流自治体合同物産展に出展し、なよろ煮込みジンギスカン等の物産販売を行います。	11月上旬
冬のなよろ写真展	名寄市にて作成している冬カレンダーの掲載作品および応募作品の一部を杉並区役所にて展示します。	1月
なよろ雪質日本一フェスティバル★	杉並区代表団が名寄市を訪問し、「おらの雪像みてくれコンクール」にて区長賞・議長賞を表彰します。	2月上旬
宗谷線フォトコンテスト入賞作品展	名寄市を通る最北の鉄道「宗谷線」のフォトコンテスト入賞作品の展示。令和2年度については全国で唯一保存展示されている排雪列車キマロキの資料展示も行います。	3月

例年行っている名寄市・杉並区の交流事業の一覧です。実施時期は変更となる場合があります。令和2年度については★の事業はコロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

令和2年度 小学生名寄自然体験交流事業報告書

令和3年3月発行
編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
☎ 03-3312-2111 (代表)
☆杉並区のホームページでご覧になれます。http://www.city.suginami.tokyo.jp

登録印刷物番号
02-0107

北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米は日本一の作付面積、アスパラガスは北海道有数の収穫量を誇る農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つなよろ市立天文台きたすばるや、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後、区民を中心とした幅広い交流が続いてきましたが、平成18年3月には旧風連町と旧名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と新名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成18年6月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



名寄市のデータ

面積 535.20 km²
(杉並区 34.06 km²)
人口 27,045人
世帯数 14,389 世帯
(令和3年1月末現在)



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑



秋のコスモス畑



なよろ市立天文台 きたすばる



名寄市
観光キャラクター
「なよろう」

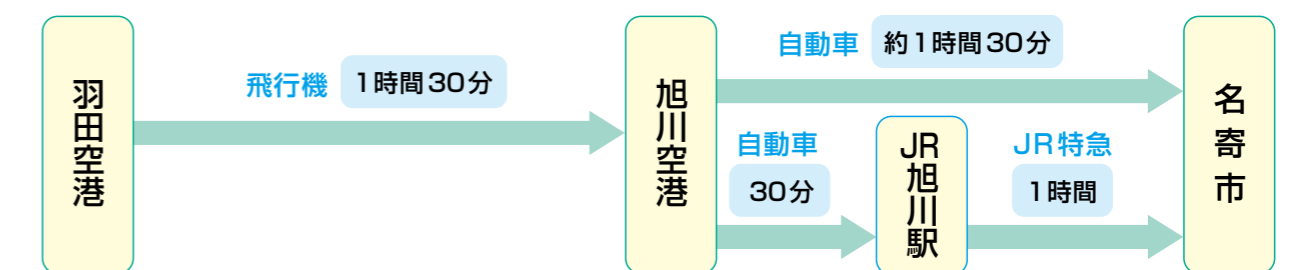


雪質日本一！ピヤシリスキー場



神秘的なサンピラー現象

名寄市へのアクセス



「小学生名寄自然体験交流事業」は 杉並区次世代育成基金を活用しています

杉並区次世代育成基金は、次代を担う子どもたちが、自然・文化・スポーツなどさまざまな分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための杉並区独自の仕組みです。

平成24年度の創設より、寄附者の皆さまからの継続的なご支援をいただくことで、多くの子どもたちに貴重な体験を提供することができています。寄附者の思いが基金を通じて子どもに託され、その子どもたちが大人になり、さらに次の世代を育てていく。

この「支援の循環」が杉並に根付き、希望に満ち溢れた未来へとつながるよう、ご支援をお願いいたします。

区主催のイベントや次世代育成基金活用事業の報告会などで募金活動を行っています。杉並区次世代育成基金の詳細については、杉並区ホームページ（下記QRコード）をご確認ください。



子どもたちの夢を応援する
杉並区次世代育成基金へのご寄附をお願いします。



杉並区HP

【お問い合わせ】

杉並区児童青少年課 TEL 03-3393-4760 mail: jisedai-ikusei@city.suginami.lg.jp